

令和2年度第1回呉市教科用図書（中学校）選定委員会 会議録

日時	令和2年6月23日（火）14:30～16:30		
場所	呉市役所7階 752～754会議室		
参加者	選定委員会	呉市立中学校長会長	細川 司（安浦中）
		保護者代表	山本 浩司 脇原 園美
		学識経験者	吉長 成恭
		校長	須藤 敏清（宮原中） 村井 眞司（白岳中） 藤原 敏宏（東畑中） 久保 好寛（広南中） 柿林 浩彦（蒲刈中） 小林 浩樹（和庄中） 野崎 倫子（郷原中） 工藤 孝之（両城中） 松田 光弘（警固屋中） 湊 和昭（阿賀中） 平田 洋一（仁方中） 石原 幹生（音戸中）
	教育委員会事務局	教育部長	坂田 恭一
		学校教育課長	安部 ほづみ
		学校安全課長	棚田 隆志
		学校教育課課長補佐	神笠 英則
		学校安全課課長補佐	森島 隆
		学校教育課主査	久保 由佳利
		学校安全課主査	伊藤 賀世
		学校教育課主任指導主事	中村 友美
		学校教育課指導主事	大段 美香
傍聴者	船尾 慎（教育委員） 佐々木 元（教育委員） 小谷 眞喜子（教育委員）		
内容	1 令和3年度使用教科用図書（中学校）の採択の手順及び選定委員会の任務等について 2 議事 （1）委員長及び副委員長選出 （2）教科用図書（中学校）の調査・研究の観点等について		

委員長選出までの司会を中村主任指導主事が行うこととし、委員会は定刻に始まった。

◎ 呉市教育委員会坂田教育部長の挨拶

- ・教科用図書の採択について
- ・教科用図書採択に係る誤記等と改善策、選定委員の役割について
- ・情報の公開について

1 令和3年度使用教科用図書（中学校）の採択の手順及び選定委員会の任務等について、資料に基づき、中村主任指導主事が説明を行った。

2 議事

**（1）委員長及び副委員長選出**

委員長及び副委員長の選出を行った。立候補者がなかったため、事務局から中学校長会長の細川校長を委員長に、保護者代表の山本様を副委員長に推薦し、承認された。

**（2）教科用図書（中学校）の調査・研究の観点等について**

司会を委員長に交代し、教科用図書（中学校）の調査・研究の観点等についての議事に入った。

◎ 事務局の説明（5つの観点について）

神笠課長補佐が、調査・研究委員会に示す各教科の観点について、広島県教育委員会が定めた「令

和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針について」に準じて作成し、広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとすると説明した。

◎ 5つの観点についての質疑・応答

なし

◎ 国語の説明（調査・研究の視点と方法について）

須藤校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【国語】」に基づき、説明を行った。

◎ 国語についての質疑・応答・意見交流

・小林校長

学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえて、設定した視点はありますか。

・須藤校長

新学習指導要領では、学習内容の改善・充実のため、急速に情報化が進展する社会に対応するために、「知識及び技能」の観点に「情報の扱い方に関する事項」が新設されている。また、読書指導の改善・充実については、中央教育審議会答申において、読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の1つであるとされたことから、各学年の「知識及び技能」の観点に、「読書」に関する指導事項が位置付けられ、「読むこと」の領域には、学校図書館の活用などに関する言語活動例が示されている。これらを踏まえ、今回は、視点③に、「読書と情報の扱い方に関する事項」を設定した。

◎ 書写の説明（調査・研究の視点と方法について）

須藤校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【書写】」に基づき、説明を行った。

◎ 書写についての質疑・応答・意見交流

・山本保護者代表

毛筆と硬筆に関して、日常的に生かすということについて、最近、臨時休校等で、子供たちも保護者もネットでどのように勉強したらいいか調べた。ネットニュース等で、読み書きしなくても勉強できるのではという意見をよく見かける。一理あるが、実際、中学卒業、高校、大学、それぞれ社会でも、書くこと読むことが非常に重要である。これを1つ念頭に置いていただき、習うことは大事だということ伝えていただきたい。

・須藤校長

貴重な意見でありがたい。御指摘のとおり、書写の学習を、生活の中で生かしていくことが大変重要な部分である。そのような学習となるような教科書になっているか、調査・研究を進めていきたい。

・細川校長

視点⑥のデジタルコンテンツについては、どのように調査・研究するのか。

・須藤校長

各者の教科書に取り入れられている。その内容等については、各者違いがある。調査・研究の際には、スマートフォン等で実際にデジタルコンテンツを開き、調査・研究していく。

◎ 社会（地理的分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）

藤原校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【社会（地理的分野）】」に基づき、説明を行った。

◎ 社会（地理的分野）についての質疑・応答・意見交流

・久保校長

学習指導要領の改訂を踏まえてというところが、どうしても気になっているところである。学習指導要領の中で、特に2点、1つは思考力・判断力・表現力を身に付けさせること、もう1つは主体的に学習に取り組む態度を育むことが大事だと大きな柱としてうたわれている。この2つの力を付けていくために、主にどの視点が調査・研究の対象になるのか教えていただきたい。

・藤原校長

新しい学習指導要領で示されている3つの資質・能力のうちの、思考力・判断力・表現力と主体的に学習に取り組む態度について、それを身に付けさせるための視点は主にどこになるのかという質問を受けたと理解している。

まず、思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための視点は主にどこになるのかということであるが、思考力・判断力・表現力を身に付けさせるということは、その前提となる知識・技能を活用して、思考・判断・表現をしていくことになる。主に、視点⑤、⑩あたりが中心になる。主体的に学習に取り組む態度では、どのような学習課題や学習展開が適切かということが求められる。主に、視点①、④、⑤、⑩、このあたりが中心になると考える。このことを、調査・研究委員会へ説明をしていきたい。

◎ 社会（歴史的分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）

村井校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【社会（歴史的分野）】」に基づき、説明を行った。

◎ 社会（歴史的分野）についての質疑・応答・意見交流

・平田校長

4つ目の観点の視点⑧の中に、資料の種類及び掲載数、掲載の仕方とあるが、掲載の仕方は具体的にどのようなことを調べていくのか。

・村井校長

まずは、各者の教科書に写真、絵図、年表、文書資料など、主にどのような資料が掲載されているかを調べる。そして、それらの資料が、それぞれいくつ掲載されているかを調べ、本文中の文言や学習内容とどのように関連性をもって表記されているかということ調べる。例えば、東京書籍の157ページを開いてほしい。10行目あたりに「奴隷制を認めるかどうかの問題になりました。」とあり、⑤⑥①と関連する資料の番号が示されている。157ページ右上の資料⑤には、関連する人物の写真や説明、その下には資料⑥の文書資料が掲載されている。さらに資料①には、当時の社会状況の補足説明もあるというつくりになっている。学習内容とどのような資料がどのように関連付けて掲載されているかを調査・研究していく。

◎ 社会（公民的分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）

村井校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【社会（公民的分野）】」に基づき、説明を行った。

◎ 社会（公民的分野）についての質疑・応答・意見交流

・野崎校長

公民の学習においては、公民としての資質・能力の基礎を育成することが重要だと思う。1つ目の観点の視点②「公民としての基礎的教養を培うための工夫」について、「現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるための具体例」の調査・研究は具体的にどのように調べるのか。

・村井校長

現代社会をとらえる見方や考え方の基礎となる枠組みとして、「対立と合意」、「効率と公正」についての理解は欠かせない。その理解の下、「対立と合意」、「効率と公正」などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動をしていくことになる。そこで、各者の教科書には、どのように「対立と合意」、「効率と公正」の扱いがされているか具体例を調査・研究していく。

◎ 地図の説明（調査・研究の視点と方法について）

藤原校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【地図】」に基づき、説明を行った。

◎ 地図についての質疑・応答・意見交流

・工藤校長

社会の地図には調査・研究の対象となる教科書は2者しかないが、示された「視点・方法」で調査・研究し、それぞれの特徴が見えてくるのか。具体的に教えていただきたい。

・藤原校長

地図は、東京書籍と帝国書院の2者しかない状況である。実際に調査・研究委員に細かく調査をしてもらうことになる。調査をしてみないと実際には分からないが、例えば、巻頭にある見開きの地図のところに目次が載っているが、少しずつ目次の記載内容も違いがある。世界地図が色分けされているが、日本と世界各地の時差で、ある1者は15度ごとに何時間違うかという説明が出ているが、もう1者は45度違うとどうなるかというように示し方が違っている。また、世界で一番大きな島であるグリーンランドはデンマークの領土であるが、1者の方はデンマークのデと表記されていて、もう1者の方はデンマークと表記されている。このように少しずつ差があり、さらに詳しく調べていくと、さらに違いも明確になってくるのではないかと思う。それらが、新学習指導要領の資質・能力の3つの柱に対応するのかどうかということ、先程示した各視点に沿って、それぞれの特徴が明確になるような調査・研究が進むよう、調査・研究委員にしっかりと説明をしていきたいと考えている。

◎ 数学の説明（調査・研究の視点と方法について）

久保校長が資料「教科用図書調査・研究の観点等について【数学】」に基づき、説明を行った。

◎ 数学についての質疑・応答・意見交流

・村井校長

学習指導要領が改訂されたことで、新しく考えた視点はありますか。

・久保校長

数学の場合は、この表の中の視点⑤「見通しをもち、論理的に考察するための工夫」が新しく考えた視点になる。数学科の目標を3つ示しているが、その(2)を御覧いただきたい。ここを踏まえて設定した新しい視点ということになる。1つ具体的な話をさせてもらいたい。学校図書2年生、118ページを開いてほしい。「多角形の角」というタイトルのページである。多角形の内角の和を求めていく学習である。最初の問題に「五角形の内角の和は何度になるでしょうか。」という問題がある。対角線を2本引き、五角形を3つの三角形に分け、 $180^\circ \times 3 = 540^\circ$ というようなやり方で角度を求めている。実はここまでは小学校5年生の既習事項である。その次からが中学校2年生の内容になる。表を作るように話が進み、何角形だったら三角形がいくつに分かれて、内角の和はどうなるか表にまとめるような授業展開となる。表を作ることで、どんな性質すなわち規則性があるか子供たちが見いだしていく。ここに見いだす活動がある。子供たちが規則性に気付く、119ページにあるように、 $n$ 角形の場合は、「 $180^\circ \times (n-2)$ 」で求められるのではないかと見いだしていく活動になる。さらに五角形の中に点Pがある場合、また、120ページには点Pが辺上にある場合、あるいは点Pが五角形の外にある場合というように、いろいろな場合について既習事項を使いながら、新しい性質を見いだしていく力、さらに根拠を明らかにしながら説明をしていく力を付けていこうということが、新しい目標として設けられている。この力を付けていくための題材が各者どのように準備されているのか、その特徴について、調査・研究していこうと考えているところである。

・山本保護者代表

観点「内容の表現・表記」にデジタルコンテンツの活用とあるが、これは、授業で活用するのか、家庭で復習として使うのか、授業中であれば、どのようなことができるのか。

・久保校長

視点⑧のイラスト・写真はこれまでもあった。今回の改訂で、デジタルコンテンツが新しく加わった項目である。実際、教科書を見ると、どの者もURLあるいはQRコードがあちらこちらに載っている。授業中に活用することも、もちろん想定している。近い将来、子供たちは1人1台タブレットという時代がやってくるだろうから、タブレットでQRコードを読み取ってということも授業中にやってみたいと思う。関連する動画を観ることができたり、自分の手で操作したりといった画面も出てくる。例えば、図形で、点Pが動いて三角形の形が変わるといった問題があるが、実際に画面に出た点Pに指を置いて画面をなぞっていくと、指の動きに合わせて点Pが動き、三角形の形も変っていく。実際に自分が操作することで理解できるというような授業展開が想定される。これまでのイラスト・写真に加え、このような学習で子供たちの興味・関心を高めたり、学習の理解をより深めたりということが期待できる。もちろん、授業だけでなく、家庭学習にも活用することも想定できる場所である。実際に各者どのような数、どのような内容か、

そのようなことを調査しながら、子供たちに効果的なものはどれかといったことを調査・研究したいと考えている。

◎ 理科の説明（調査・研究の視点と方法について）

柿林校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【理科】」に基づき、説明を行った。

◎ 理科についての質疑・応答・意見交流

・須藤校長

2点うかがいたい。1点目は、学習指導要領が改訂されたことで、新しく考えられた視点はあ  
るか。2点目は、視点⑤のところ、「科学的に探究する力の育成を図る工夫」として、「探究の  
過程の示し方及びその具体」だが、どのような調査・研究になるのか、もう少し詳しく説明をお  
願ひしたい。

・柿林校長

2つの質問についてお答えする。まず、1点目の改訂に基づき新しく考えた視点であるが、育  
成を目指す資質・能力、これらを育成する観点から、改訂のポイントは2つある。1つ目は、見  
通しをもって観察・実験を行い、その結果を分析して解釈する科学的な探究を充実するというこ  
とであるので、5つ目の観点「言語活動の充実」の視点⑨に入れている。2つ目の改訂のポイン  
トは、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高めるため、日常生活や社会と  
の関連を重視していることである。2つ目の観点「主体的に学習に取り組む工夫」の視点④に入  
っている。2つ目の質問、視点⑤に「探究の過程の示し方及びその具体例」とあるが、これにつ  
いては、学習指導要領の9ページに資質・能力を育成するための学びの過程の例として、探究の  
過程のイメージが示されている。この探究の過程の全体の流れが分かりやすく示されているのか、  
それぞれの過程で期待されている生徒の姿が分かりやすく示されているのかということを調査・  
研究していきたいと考えている。

◎ 音楽（一般）の説明（調査・研究の視点と方法について）

小林校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【音楽（一般）】」に基づき、説明を  
行った。

◎ 音楽（一般）についての質疑・応答・意見交流

・石原校長

視点⑧「〔共通事項〕の指導を充実させる工夫」の方法では、「音楽を形づくっている要素の示  
し方と指導の工夫」とあるが、具体的にはどのようなものがあるのか。

・小林校長

学習指導要領解説に、音楽科における〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必  
要となる資質・能力であり、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習を支えるものとして位置付けられて  
いる。〔共通事項〕の学習では、「音楽を形づくっている要素」や要素同士の関連を知覚すること  
が重要である。知覚というのは、いわゆる聴覚を中心として聴き取るということである。「音楽を  
形づくっている要素」には、例えば、リズム、速度、強弱などがある。調査・研究では、これら  
の要素がどのように示されているか、指導の工夫としてどのように表現・表記されているか調査  
する。

◎ 音楽（器楽合奏）の説明（調査・研究の視点と方法について）

小林校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【音楽（器楽合奏）】」に基づき、説  
明を行った。

◎ 音楽（器楽合奏）についての質疑・応答・意見交流

・石原校長

視点②で「リコーダー及び和楽器の取扱い方」、視点④で「和楽器の学習の扱い」とあるが、和  
楽器についてどのように扱われるのか。

・小林校長

学習指導要領改訂の要点の1つに、伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこ

との更なる充実が求められるとあり、和楽器を扱い、表現活動を通して、伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫することが示されている。和楽器については、3年間を通じて1種類以上の和楽器を取り扱い、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫することと示されている。

◎ 美術の説明（調査・研究の視点と方法について）

野崎校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【美術】」に基づき、説明を行った。

◎ 美術についての質疑・応答・意見交流

・久保校長

学習指導要領の改訂に伴い、新しく取り入れられた視点はありますか。

・野崎校長

今回の改訂では、生徒が造形的な視点を持ち、形や色彩、材料などの造形を豊かにとらえる視点をもって、造形的な見方・考え方ができるように表現及び鑑賞の指導を行うように示されている。これらを受けて、特に、視点②、⑤、⑨が新しく取り入れた視점에当たると考えている。

◎ 保健体育の説明（調査・研究の視点と方法について）

工藤校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【保健体育】」に基づき、説明を行った。

◎ 保健体育についての質疑・応答・意見交流

・湊校長

視点①の系統性の示し方とはどのようなことか教えていただきたい。

・工藤校長

今回の学習指導要領の改訂では、発達段階のまとまりが考慮され、各領域で育成することを目指す具体的な内容の系統性を踏まえた指導内容の一層の充実が図られている。これらのことを踏まえて、単元の目標と系統性の示し方、課題提示と1時間の学習の流れの示し方について見ていきたいと考えている。

◎ 技術・家庭（技術分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）

松田校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【技術・家庭（技術分野）】」に基づき、説明を行った。

◎ 技術・家庭（技術分野）についての質疑・応答・意見交流

・湊校長

視点②の基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための工夫とあるが、具体的にはどのような調査をされるのか。

・松田校長

技術分野は、中学校に入って初めて学習する内容になる。子供たちは生活経験も少なく、初めて出てくる言葉もたくさんある。そのような重要語句について、どのように記載されているのか。また、作業もあるので、作業をするときの技能のポイントがどのように記述されているのか、作業をしていく上で、安全に実習を行うことができるよう、どのように記述されているのかといったことについて調査・研究をしたいと考えている。

◎ 技術・家庭（家庭分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）

湊校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【技術・家庭（家庭分野）】」に基づき、説明を行った。

◎ 技術・家庭（家庭分野）についての質疑・応答・意見交流

・協原保護者代表

視点⑥の調理実習等で作った料理については、家庭で作っていくこともある。生きていくため、生活していくために大切な学習だと思う。生活に密着した実習等になるよう調査をお願いしたい。

・湊校長

貴重な意見ありがたい。実践的・体験的な学習について、家庭や地域で活用しやすい具体例となっているか調査・研究してもらおうと思う。

・松田校長

視点⑦、各教科等と関連する内容とあるが、家庭分野では具体的にはどのようなものがあるのか。

・湊校長

例えば、家庭分野の吸収された栄養素については、理科第2分野の消化吸収との関連が記述されていたり、家庭分野の売買契約の三者間契約については、社会科公民的分野、契約の重要性、個人の責任との関連が記述されたりしている。

◎ 英語の説明（調査・研究の視点と方法について）

平田校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【英語】」に基づき、説明を行った。

◎ 英語についての質疑・応答・意見交流

・藤原校長

視点⑨、新しい学習指導要領で、4技能5領域と変わっている。活用させる言語活動というのは、具体的にどのようなものか教えていただきたい。また、調査・研究するとき、変わったことで注意しなければならないことがあれば、教えていただきたい。

・平田校長

これまでは、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能4領域であった。この中の「話すこと」が、やりとりと発表と2つに分かれ、4技能5領域で目標が明記され、中学校段階では、5領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することになる。統合的に活用させる言語活動であるので、複数の領域を効果的に関連付けて行う。調査・研究では、例えば、あるテーマについて、まずペアで話し合う、その後、まとめて書くというように、1つだけを独立させるのではなく、統合的に組み合わせたり扱ったりしているか、組み合わせ方の工夫を見ていく。

・山本保護者代表

視点⑤で小学校外国語科との接続とあるが、英語だけがこれを取り上げたのはなぜか。小学校と連携していくような教科書選びということで認識していいのか。

・平田校長

今年度から、小学校において、外国語科の授業が始まっている。これまでの外国語活動から、外国語科となっている。以前の「慣れ親しむ」から一步踏み込んで、「書くこと」や語順を意識させることなどが入っている。新たに加わったことで、中学校の教員も1年生を受け入れるに当たり、小学校での学習と中学校での学習の接続を意識して指導することが重要であると考えている。各者、1年生の教科書の最初のレッスンやユニットが、小学校とのつながりを意識した内容になっている。そこの工夫をしっかりと調査し、より効果的に小学校の学習が中学校の指導で生きてくるような教科書選びが重要になってくるのではないかと考え、このような視点を出している。

◎ 道徳の説明（調査・研究の視点と方法について）

石原校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【道徳】」に基づき、説明を行った。

◎ 道徳についての質疑・応答・意見交流

・脇原保護者代表

視点⑥の現代的な課題の中に入るかと思うが、最近問題になっている、SNS上での人との付き合い等に関する問題についても具体的に調査していただければと思う。

・石原校長

道徳が教科化された大きなきっかけは、いじめに関する事案であり、道徳科の充実がいじめの防止に向けて大変重要である。情報モラルに関して取り扱っている教科書もあるが、いじめ問題については各者とも重点教材として扱っているため、いじめの問題の扱いについて調査・研究することにしている。

・柿林校長

視点③について、道徳科における問題解決的な学習とは、どのような学習ととらえたらいいのか。また、視点④の体験的な学習とはどのような学習か教えていただきたい。

・石原校長

道徳科における問題解決的な学習は、これまでの道徳の授業が読み物教材の心情理解のみに偏った指導になりがちな反省を踏まえ、質的転換を図る上で、体験的な学習とともに提案された指導方法の1つである。問題解決的な学習とは、教材から道徳的な問題を見付け、その問題をよりよく解決するためには、どのような行動をとればいいのか等について、多面的・多角的に考え、議論することを通して解決を図っていく学習である。体験的な学習については、役割演技など類似体験的な表現活動を通して学んだ内容から、道徳的価値の意義などについて、考えを深めるもので、様々な課題や問題を主体的に解決するための資質・能力を養う学習である。

◎ 全体を通して

・細川校長

では最後に、学識経験者代表の吉長先生、保護者代表の山本様、脇原様から、御意見があればお願いしたい。

・吉長教授

本日の議論とは違うかもしれないが、中学校におけるプログラミング教育の導入について、どのように扱うのか教えていただきたい。

・松田校長

中学校では、小学校におけるプログラミング教育の成果を生かし、発展させるという視点から、技術分野の中でプログラムの学習をする。これまでの計測・制御に加えて、双方向性のあるコンテンツに関するプログラミングや、ネットワークやデータを活用して処理するプログラミングが教科書でも扱われている。

・細川校長

それでは、教科用図書（中学校）の観点等については、原案どおり調査・研究委員会に示すということでよろしければ、拍手をお願いします。

（拍手）

◎ 閉会

中村主任指導主事が次回の予定等について確認して、会を終了した。



令和2年度第2回呉市教科用図書（中学校）選定委員会 会議録

日 時	令和2年8月6日（木）13:00～16:30			
場 所	IHIアリーナ呉（呉市体育館）201室			
参加者	呉市立中学校長会長	細川 司（安浦中）		
	保護者代表	山本 浩司 脇原 園美		
選定委員会	学識経験者	吉長 成恭		
	校長	須藤 敏清	（宮原中）	村井 眞司（白岳中）
		藤原 敏宏	（東畑中）	久保 好寛（広南中）
		柿林 浩彦	（蒲刈中）	小林 浩樹（和庄中）
		野崎 倫子	（郷原中）	工藤 孝之（両城中）
		松田 光弘	（警固屋中）	湊 和昭（阿賀中）
		平田 洋一	（仁方中）	石原 幹生（音戸中）
教育委員会事務局		学校教育課長	安部 ほずみ	
	学校安全課長	棚田 隆志		
	学校教育課課長補佐	神笠 英則		
	学校安全課課長補佐	森島 隆		
	学校教育課主査	久保 由佳利		
	学校安全課主査	伊藤 賀世		
	学校教育課主任指導主事	藤井 眞實		
	学校教育課指導主事	西本 樹里		
傍聴者	森尾 敬介（教育委員） 船尾 慎（教育委員） 佐々木 元（教育委員）			
内 容	1 第1回選定委員会の協議結果についての確認 2 調査・研究委員会についての報告 3 議事 ・総合所見の案について			

◎ 開会

藤井主任指導主事が会を始めた。

1 第1回選定委員会の協議結果についての確認（進行：選定委員長 細川校長）

・神笠課長補佐

まず、第1回の選定委員会の協議結果について確認する。協議内容は、委員長及び副委員長選出と教科用図書の調査・研究の観点等についての2点であった。

1点目について、委員長には、細川校長が、副委員長には保護者代表の山本様が選出され、決定した。

2点目の教科用図書の調査・研究の観点等について、調査・研究委員会に示す観点について「広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとする」と提案し、議決された。

調査・研究の視点及び方法について、いろいろな質問や意見が出され、「原案通り調査・研究委員会に示す」ということで議決された。

また、7月1日（水）に開催した第1回調査・研究委員会において、この観点等を、各選定委員の校長から、調査・研究委員に説明された。

◎ 協議結果についての質疑・応答

特になし

2 調査・研究委員会についての報告（進行：選定委員長 細川校長）

・神笠課長補佐

まず、本選定委員会が調査・研究を依頼している調査・研究委員会について報告する。「令和2年度第2回呉市教科用図書（中学校）選定委員会—資料—」2ページの資料2「令和3年度使用

教科用図書（中学校）の採択手続について」の「3 日程」の5月から8月のところにあるように、これまでに、調査・研究委員会を3回開催した。

第1回の調査・研究委員会は、7月1日（水）に開催した。

はじめに、教科用図書の採択の手順及び調査・研究委員会の任務等の説明を行った。その後、各部会で、各選定委員の校長が、選定委員会で決定した観点等について説明した。そして、報告書を作成するための調査・研究の進め方を説明し、役割分担を行った。

第2回の調査・研究委員会は、7月10日（金）に開催した。第2回では、各委員が役割分担した箇所を調査・研究した内容について全体に報告し、協議した上で、加筆・修正する作業を行った。

第3回の調査・研究委員会は、7月28日（火）に開催した。第3回では、第2回以降各担当者が加筆・修正した箇所について全体で協議して修正を加え、視点ごとに主担当と副担当で誤字・脱字等のチェックを行い、作業を完了した。

その後、7月29日（水）、選定委員長細川校長に報告書が提出された。その報告書をもとに、各選定委員会部会代表の校長が作成したものが「令和3年度使用呉市教科用図書（中学校）総合所見（案）」である。この後、各部会代表の校長が提案する。

- ◎ 協議結果についての質疑・応答  
特になし

### 3 議事（進行：選定委員長 細川校長）

#### ・総合所見の案について

- ◎ 各自で資料を読んだ。（13時25分まで）

- ◎ 国語の説明

須藤校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

- ◎ 国語について質疑・応答・意見交流

#### ・野崎校長

観点5「言語活動の充実」について、三省堂の「実際に生徒が目的に応じて活用しやすい」というのは、具体的にどういうことか。

#### ・須藤校長

三省堂の第3学年の教科書を見てほしい。第1単元「グループディスカッション」についての学習の36ページに、「次の『話し合いのこつ』を意識して、グループで話し合いましょう。」とあり、「話し合いのこつ」として、4色の付箋のような枠がつくってある。その中に、「計画」「展開」「軌道修正」「整理」それぞれの場面での発言例が示してある。生徒は、この発言例を参考に話し合いを進めることができる。また、ページの下の方に「この教科書に出てくる『話し合いのこつ』と発言例」というコーナーがある。各学年で学習する「話し合いのこつ」がまとめてある。たとえば、第1学年では「話し合いを『つなげる』」というタイトルがあり、話し合いをつなげるための表現の例を示している。提案の場面では「だったら…はどうか」、確認のところでは、「…ってどういうこと？」、質問では「どうして？」、促しでは「〇〇さんはどう？」というふうに、キーワード的に示している。

続いて、第8単元の202ページを見てほしい。心に残る「名言集」を作るための編集会議を行う場面が設定されている。ここに先ほどの第1単元で学習した「話し合いのこつ」を活用しようというコラムが設けられている。ここでは、グループディスカッションで学んだことを、編集会議の学習の際に活用するという工夫が仕組みられている。このように違う場面で活用する学習を行うことで、国語の授業以外でも活用できるようになるのではないかと考える。

- ◎ 書写の説明

須藤校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

## ◎ 書写について質疑・応答・意見交流

### ・山本保護者代表

感想になるが、観点4のデジタルコンテンツを各者準備ということで、私も今、スマートフォンでQRコードを読み取って中身を見たが、非常に分かりやすく説明をしながら書かれているので、最近の児童生徒にとって、デジタルコンテンツを使うことは有用だと思う。小学校の授業を見せてもらったことがあるが、習っていないところを書くということもあったので、こういうコンテンツを活用しながら指導していただければと思う。また、これからタブレットも小中に導入されるということで、各教科、特にこの書写についても、このような動画を効果的に活用していただきたい。

### ・細川校長

観点2の振り返りについて、特に東書に「自分の言葉で説明する活動」とあるが、具体的に、書写の中で説明するとはどういうものなのか。

### ・須藤校長

例えば、東書の行書の授業の中に「振り返って話そう」という形で振り返りが設けられている。点画の変化について理解したことを、自分で書いた文字を使って説明しようとする。隣の人や同じ班の人に、自分で書いた作品を示しながら、点画の書き方について理解したことを自分の言葉で説明するというものである。書写の時間なので、あまり時間をかけて行うことはできないが、有効な活動であると考えている。

## ◎ 社会（地理的分野）の説明

藤原校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

## ◎ 社会（地理的分野）について質疑・応答・意見交流

### ・工藤校長

観点2の「主体的に学習に取り組む工夫」について、特徴的なところを具体的に例を挙げて説明してほしい。

### ・藤原校長

中国・四国地方を例に説明する。主体的に取り組む活動として注目したのは、中国・四国地方でいうと、節を貫く課題が設定されていること、その学習が小单元ごとに積み上げられていき、節の最後に対応するまとめとしてどのような活動が適切に位置付けられているかということである。つまり、ぶれない学習活動で生徒が学習をしていき、最終的に地理的な見方・考え方が身についていけるかどうかという視点で見ている。

東書から説明する。197ページに中国・四国地方の導入部分がある。中国・四国地方は、交通、通信という視点で地域を見ている。瀬戸大橋やリモートの写真があり、キャラクターが吹き出しで問いかけている。199ページの右下部分には、「中国・四国地方の探究課題は？」に対して、キャラクターの吹き出しがあり、探究課題としてこのような設定がされてある。そして、小単元の学習を積んでいくと、206ページと207ページに振り返りの学習のページが設定されている。206ページの「みんなでチャレンジ」と207ページのキャラクターのヒントを使って、207ページの図の中にまとめられるようになっている。このように、一貫した学習の流れの中で、東書は学習を行うことができる。

教出では、188ページに中国・四国地方の「学習の視点」が示されている。小単元の学習を積んでいくと、201ページに振り返りがある。教出の場合は、一番下に「人口の変化」と「地域の変化」をまとめたり考えたりするような形になっている。

帝国は、187ページから中国・四国地方の学習になる。まず、187ページで鳥瞰図が示され、188、189ページでガイド的な写真が示され、190ページの一番上に「第2節の問い」として、中国・四国地方の単元を貫く課題が示されている。同様に、学習を積み重ねていくと、200ページ、201ページにまとめの学習がある。特に201ページに「地理的な見方・考え方を働かせて説明しよう」ということで、思考力・判断力・表現力が身につくように工夫されている。

日文では、178ページから中国・四国地方の学習がある。代表的な考えがあり、181ページの右下に「追究するテーマ」が示されている。学習を積み重ねていくと、191ページに振り返りの学習がある。このように、各者とも単元を貫く課題とまとめ、その中でどのような力を付

けていくかということが示されている。

◎ 社会（歴史的分野）の説明

村井校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 社会（歴史的分野）について質疑・応答・意見交流

・久保校長

東書の観点5「言語活動の充実」の説明の中で、「また章の導入で設定した探究活動とまとめが連動しているため、生徒が思考を整理し表現しやすい」という部分に関心があり、興味深いところなので、具体的に詳しく教えてほしい。

・村井校長

東書の98, 99ページを開いてほしい。第4章「近世の日本」についての導入のページになる。99ページの右下に、第4章の探究課題として、「近世では、どのようにして社会が安定したのでしょうか。」と示している。次に、145ページを開いてほしい。ここが対応の部分である。145ページの一番下、「近世の探究課題を解決しよう」ということで、章の導入で示した探究課題を再度示している。「近世では、どのようにして社会が安定したのでしょうか。」この課題を解決するように促しているところだが、導入で設定した課題とまとめが連動しており、この「問い」を軸に、課題解決的な学習の流れになっている。また、99ページを見ると、右下に「探究のステップ」ということで、①、②、③とある。そして145ページを見ると、連動する形となっている。これは、探究課題の解決を補助する節ごとの問いであり、細かいステップで思考を整理することができるようになってきている。これらのことにより、生徒は、この章で学んだ内容や自分の考えを整理し、表現しやすくなると思う。

・山本保護者代表

総合所見とは離れるが、今日は8月6日である。平和学習が最近薄れている気がする。歴史の中でどのあたりが平和学習とつながっているのか。

・村井校長

社会科の学習指導要領に「平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する」ことが目標にあがっている。それを受けて、歴史の中では、例えば一番近いところでいうと、第二次世界大戦、太平洋戦争だと思う。各者とも大体8ページから10ページを使って、なぜ戦争が起こったのか、またその途中経緯を含めて、あるいは、戦争終結に向けての動き、戦後の平和国家の成立に向けてなど、いろいろまとめている。中には、平和学習につながるということで、杉原千畝さんの「命のビザ」をコラムにして載せている。東書と教出は、特設の平和学習のページも作っている。東書の276, 277ページには、「広島復興と平和への願い」というのが見開きである。これは、平和学習を踏まえながら、さらに地域を調べていく。そして、それをまとめて、調べたことを発表したり、平和な世の中を作っていくことに向けて、自分たちに何ができるかを考えさせたりと、大変奥の深いページとなっている。ちなみに、こういった見開きは、東書は広島に特化しているが、教出にもあり、教出は戦争の中の記憶という中の一部として、広島を伝えている部分がある。

◎ 社会（公民的分野）の説明

・村井校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 社会（公民的分野）について質疑・応答・意見交流

・石原校長

観点1「基礎・基本の定着」で、「対立と合意」、「効率と公正」について説明していただいたが、各者の資料の具体について、もう少し詳しく説明してもらいたい。

・村井校長

各者とも、例えば、合唱コンクールの練習スケジュール、昼休みのグラウンドの使用といった校内の身近な例や防災備蓄倉庫の新設、ごみ収集所の新たな設置といった地域の対立する例を示している。東書の26ページを開いてほしい。26ページの左上に、「2年前の学校でのトラブルについて考えよう」という課題を示している。部活動の体育館の割り振りをしていくのに、どうやったら公平になるのかという身近な課題だと思う。次は、28ページを開いてほしい。28ペ

ージには、前回の課題をいろいろ対応した結果、また新たな問題が出たということで、「1年前の学校でのトラブル」、さらに30ページには、「現在の学校でのトラブル」という課題を設定している。同じ部活動の体育館使用を例に、時系列で、「対立と合意」、「効率と公正」の視点に着目して考え、課題を解決していくよう工夫が見られる。このような時系列を追った学習展開は、生徒の「対立と合意」、「効率と公正」への理解を深め、これらの視点に着目した思考を働かせるのに、効果的であると考え。

・細川校長

観点5の説明の中に、「思考ツールの活用」があった。具体的にどんなものがあるのか、教えてほしい。

・村井校長

思考ツールとは、物事を考えていくときの方法、まさにツールである。例えば、東書の70ページに、「みんなでチャレンジ」という課題の横に、「ツールミン図式」というものがある。これは、ある事実から自分の主張を考えるとき、その根拠を整理する一つのツールである。その他にも、教科書会社によって、クラゲ図、物事に対していろいろなことがどのようにつながっていくのか、それを見ながら思考がまとめられるといった思考ツールが示されている。

◎ 地図の説明

・藤原校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について」の種目名の修正の依頼をした。【社会(地図)】から【地図】へ修正し、すでに選定委員長と事務局には提出していることを伝えた。その後、資料「総合所見(案)」に基づき説明を行った。

◎ 地図について質疑・応答・意見交流

・平田校長

地図では、「防災教育」の視点が県の選定資料にはなかったが、呉市で視点に加えているということであるが、もう少し具体的に説明をしてほしい。

・藤原校長

平成30年西日本豪雨で呉市は多くの被害を受けた。亡くなられた方もたくさんいる。今も仮設住宅で暮らしている方もいる。爪痕も多く残っている。小中学校も多くの被害を受けた。児童の命が失われるということもあった。地理的分野の教科書だけでなく、地図の方でも、防災教育の視点というと、呉市独自の視点として設けるべきではないかということで、前回の選定委員会の中で提案し、了承を得た上で、調査・研究委員会で説明をし、調査をしてもらった。

具体的に説明すると、東書の151、152ページ、帝国の149、150ページの見開き2ページに、「日本の自然災害」について記載されている。東書の方は、坂町のクレアライン、呉線、31号線が崩れたところの写真も載っている。津波の写真もあり、写真で見っていくという点で特徴がある。帝国の方は、149ページの下にあるイラストマップが特徴であり、こういう自然災害に対してはどのような備えをしたらよいか、大変分かりやすく説明がされている。

東書を見てほしい。東書の94ページに、九州地方の中の一つとして、台風や土砂災害の被害を受けやすい地域の地図があり、左上に防災のことが載っている。次は、134ページに、東日本大震災による被害の写真や地図がある。そして、146ページに、北海道の地形と自然災害の地図がある。今説明した3つについては、「ジャンプマーク」を設けて、見開きの151ページを参照してはどうかということで、参照できるようになっている。

一方、帝国では、88ページの右下に、火山災害への備えということで、【防災】マークが付いており、【地図活用】が付いているところもある。次に出てくるのが96ページとなり、広島市付近にある水害の碑の分布ということで、【防災】マークが付いている。97ページには、阪神淡路大震災ということで神戸のことが出ている。101、102ページには、大阪湾周辺のこと【防災】マークがある。108ページには、富士山が噴火した時の予想ということで【防災】マークが付いている。115ページには、木曾三川の濃尾平野のところで、洪水への備えということで【防災】マークがある。123ページは、東京都周辺のものになる。130ページでは、東京都の大規模災害への備えとして【防災】マークがある。132ページには、東日本大震災に関連する地図が載っている。144ページには、雪に備えるということで札幌の事例が載っている。このように、帝国では、それぞれの地方ごとに必ず1つ、防災の視点ということで、防災について載っている。

◎ 休憩（10分間）

◎ 数学の説明

- ・久保校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 数学について質疑・応答・意見交流

・柿林校長

観点1の東書について「章を通して身に付けさせたい力がタイトルと文章で示してある」というのは、具体的にどういうことか。

・久保校長

東書の第2学年の9ページを開いてほしい。1章のとびらのページになるが、章のタイトルが、「文字式を使って説明しよう」とある。そして、その下に文章で「運動場のトラックにセパレートコースを作るとき、各レーンのスタート地点を、どれくらいずらせばよいでしょうか」と「ここでは、1年の文字式の学習をいかして、文字式を使って表現し、説明する力を身につけていきましょう」とある。先ほど質問にあったタイトルと文章というのはこのことである。セパレートコースの1レーンと2レーンを何メートル前にすればよいのかという、身近な話題である。学校生活の中の一場面を一つ題材にして、「このことを解決したいのだけど、これは文字式を使ったら解決できるんだよ。」「このように身近なことを、文字を使って説明する力を今からこの章で付けていくんだよ。」ということページを使って示している。また、35ページを開いてほしい。35ページが2章のスタートのページである。「方程式を利用して問題を解決しよう」が章のタイトルである。「バスケットボールには、3点と2点の2種類のシュートがあります。得点の合計から、決めたシュートの本数を知ることができるでしょうか」と「ここでは、1年の方程式の学習をいかして、2つの文字をふくむ方程式を考え、問題解決に利用する力を身につけていきましょう」とあり、「この単元ではこんなことができるようになっていくよ。そんな学習なんだよ。」ということが、このような文章で示されている。これも学校生活の中の一場面を題材にして、「この章では今からこんなことをやっていくよ。」というようなことが書いてある。調査・研究委員からは、章のスタートにあたって、「今からこのような学習を進めていくよ。」「この学習を通して、こんな力を身に付けていこうね。」と確認できることが、先が見通せるよいスタートに繋がるという声が多かった。

・細川校長

ノートの書き方について、美しいノートの例があることで反対に「この形でないといけない」というような弊害に繋がるのではないか心配である。このことについて意見を聞きたい。

・久保校長

まずは基本を身に付けることが大事だと思う。その上でさらに自分なりの工夫をしていくことは当然ありうると思う。それは、基本が身に付いてからのことであり、最初から自分なりに作っていくと、自分なりの方法というのが、一つの方向にしかいかないということもあるので、まずは基本を身に付けるという指導がもっともだと思う。

◎ 理科の説明

- ・柿林校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 理科について質疑・応答・意見交流

・藤原校長

東書によい特徴が多いと説明があったが、観点2「主体的に学習に取り組む工夫」の『「ページ下部に」』『キーワードを色付きで配列し』から『強調している』と説明があった。このことについて、具体的に教えてほしい。

・柿林校長

東書の第1学年の86、87ページを見てほしい。この2ページでは、写真から問題を見いだして、「見た目で見分けにくい物質の種類を知るには、どうしたらよいか」という課題を設定するとともに、実験の構想を練る内容を扱っている。そして、ページ下部を見てほしい。左から「問題発見」から「活用」まで、探究の過程が示されているが、左端の「問題発見」から「構想」までがオレンジ色で色付けされ、ここが他のキーワードよりも協調されている。次に、88ページ

を見てほしい。ここでは、「実験」「分析解釈」に色付けがされ、先程よりも探究が進んだことが分かる。このような工夫が随所に見られるため、生徒は「今何について考えればいいのか」「この後はどのように学習を進めればよいか」を視覚的に理解しやすく、主体的に学習に取り組むことができると思う。

◎ 音楽（一般）の説明

- ・小林校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 音楽（一般）について質疑・応答・意見交流

- ・久保校長

観点1の2つ目の視点に関して、総合所見に記載されている『Let's Sing!』『My Voice!』では、実際に調査してみて、どのような違いがあったか、具体的に教えてほしい。

- ・小林校長

教出、教芸ともに音楽1を見てほしい。教出は、12、13ページ。教芸は、14、15ページを開いてほしい。教出では、「Let's Sing!」という項目を設けて、歌うためのワンポイント・アドバイスを示している。内容は、音楽1の中でも「言葉の発音について」や「変声と混声合唱」、音楽2・3下になると「フレーズと形式」というように、発展的な内容を示している。

教芸は、「My Voice!」という項目を設けて、歌うための技能について示している。姿勢、呼吸、声の響かせ方等について音楽1で示した後、音楽2・3下でも繰り返し示すなど、発達段階に応じて歌唱技能のポイントや注意点を示しているという工夫がある。

◎ 音楽（器楽合奏）の説明

- ・小林校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 音楽（器楽合奏）について質疑・応答・意見交流

- ・脇原保護者代表

箏の創作活動の設定ということがあったが、どのような設定があったのか。

- ・小林校長

教出、42ページを開いてほしい。「音のスケッチ」として創作活動を設定している。ここでは、「荒城の月」の前奏を創作するように示し、活動1～3と書き込みができるワークシートを示している。

教芸、49ページを開いてほしい。「My Melody」として創作活動を設定している。上段部分に「課題」とあり、まずはどちらかの旋律を選ぶ、次に、音のつながり方を工夫する、そして、終わりの音を指定しているというように、具体的に示されている。どの生徒にも分かりやすく、主体的に取り組むことができるという工夫があった。

◎ 美術の説明

- ・野崎校長が総合所見の観点1「基礎・基本の定着」の光村の下から2行目「動画が豊富に」を「動画を豊富に」への訂正を伝えた。その後、資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 美術について質疑・応答・意見交流

- ・平田校長

観点2「主体的に学習に取り組む工夫」について、「光村」は実際の作品の仕上がりに近づけたり、実感を伴って生徒が理解しやすいようにしたりしていると説明があったが、具体的にはどのような工夫か。

- ・野崎校長

実際の作品に近づける工夫だが、鑑賞教材において、光村の教科書第2・3学年の教科書37ページに、鎌倉時代の絵巻物である「鳥獣人物戯画」の作品がある。このページだけ和紙のような風合いのある紙で、生徒が手に取った瞬間に、日本の文化や古典の題材だなと興味をもてるようになっており、イメージしやすいようになっている。

実感を伴って生徒が理解しやすいようにしている工夫だが、11ページを見ると、何も印刷されていない透明なトレーシングペーパーとなっている。13ページのレオナルド＝ダ＝ヴィンチ

の「最後の晩餐」を学習するときに、ダ・ヴィンチが用いた遠近法の一つである一点透視図法を生徒たちが物差しを用いて、実際にこのトレーシングペーパーに書き込んでいく。このような操作的な活動を通して、作者の遠近法の使い方、中央のキリストに視線が集まるような図法の工夫を実感を持って理解できるようになっている。また、48ページから、パブロ＝ピカソの「ゲルニカ」の作品になっている。折り曲げのページを開くと大きな「ゲルニカ」が掲載されている。これを閉じると、作品とともに中央に少年が掲載されている。この少年の目線から生徒自身も作品を見たような感覚になり、作品の大きさやスケールを体感しながら見ることができる。実感を伴うということが、こういうところに表れていると考える。

・細川校長

見た目がどうしても必要だと思われる。印刷なので、発行者によって、実際に刷り上がったものと実物の色と違うと思うが、その点はどうか。

・野崎校長

光村の第1学年の30ページを見てほしい。30ページ、35ページには、俵屋宗達の風神雷神が載っている。開くと、彫刻の風神雷神の奥に、俵屋宗達の風神雷神が出ている。このカラーの図版については、本物の美しさが際立っている。他のページの印刷よりも、鑑賞教材においては、印刷のグレードは大切だと考えている。

◎ 保健体育の説明

・工藤校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 保健体育について質疑・応答・意見交流

・小林校長

東書に、Dマークコンテンツが示されているとあるが、どのような教育効果があるか教えてほしい。さらに、どのような動画が出てくるのか、教えてほしい。

・工藤校長

東書の1ページを見てほしい。ここには、Dマークコンテンツの一覧が示されている。授業中や家庭学習において、学習内容に関連する動画などをタブレット端末などで見ることで、生徒の理解度に応じて活用するなど、生徒がこれまで以上に主体的に学習に取り組むことができると考える。動画は、例えば、心肺蘇生の方法やAEDの使い方、感染症予防として正しい手洗いの仕方などの動画を見ることができる。東書はこのような充実したコンテンツが示されている。

◎ 休憩（10分間）

◎ 技術・家庭（技術分野）の説明

・松田校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 技術・家庭（技術分野）について質疑・応答・意見交流

・湊校長

観点2「主体的に学習に取り組む工夫」のところで、開隆堂は、「実習例において、学習過程が一目で分かるように掲載している」と言われたが、もう少し具体的に説明してほしい。

・松田校長

開隆堂の6、7ページを見てほしい。「技術分野の学習の流れ」ということで、左の方から、「技術分野の学習の流れ」が示してある。真ん中あたりに、①、②、③、④と書いてあるのが分かるだろうか。このような形で学習の流れが書かれてある。次に、56、57ページに実習例が出ているので見てほしい。56、57ページには、マルチラックを製作するにあたって、見開きの上の部分に、左から青い文字で「身近な問題の発見」「課題の設定」「設計・製作」「評価・改善」と枠の中に書かれているのが分かるだろうか。この流れが、6・7ページの学習の流れの②～⑤に対応している。すべての実習例で、「評価・改善」を含めた学習の流れが一目で分かるように示している。生徒は、この流れで繰り返し学習していくので、学習過程を意識しやすいと考える。

◎ 技術・家庭（家庭分野）の説明

・湊校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。



## ◎ 技術・家庭（家庭分野）について質疑・応答・意見交流

### ・松田校長

観点2の「主体的に学習に取り組む工夫」で、「生徒の実践例が豊富に掲載されている」と説明があったが、具体的にはどういうものを教えてほしい。

### ・湊校長

生徒の実践例が豊富に掲載されている東京書籍を使って説明する。東京書籍の教科書を準備してほしい。東京書籍では、267ページから277ページにわたって、「選択 生活の課題と実践」の中で、生徒の実践例が掲載されている。その中で、具体例として、274ページを見てほしい。「『私たちの住生活』を主とした課題と実践」が示されているが、右上には、実際の生徒のレポート例として、「生活の課題と実践のレポート」が、その左下には、ポスター例として「家族の防災マニュアル」が掲載されている。その他にも、新聞やプレゼンテーションなどの生徒の作品例が多く掲載されている。これらは、「生活の課題と実践の進め方」の6つのプロセスに沿って作られており、生徒が主体的に学習に取り組むことを促しやすいと考える。

### ・藤原校長

技術分野、家庭分野の両方に関わる。観点1の「基礎・基本の定着」のどちらも東書になるが、Dマークについて、技術分野と家庭分野で記述内容が違うが、何か差があるのか。

### ・湊校長

開隆堂や教図にも各単元のページを開けば、動画を見るQRコードはある。家庭分野の方で特に取り上げたのは、東書の291ページの一覧である。例えば、開隆堂の175ページでは、一番下にQRコードがあり、教科書を開けば動画コンテンツを見ることはできる。しかし、そこを開かないと見ることができないと考えたときに、東書の291ページの一覧を見れば、家に帰って、調理実習をしたり、復習したりしようとしたときに、生徒が活用しやすいところを取り上げており、よいのではないかと考えた。技術分野は、また違う視点で調査・研究されていると思うので、そこに差があると思われる。

### ・松田校長

技術分野でもQRコードはあるが、関連するところがすぐに分かるので、特にそのことについて差はつかないと考え、3者とも同じような表現になっている。

## ◎ 英語の説明

- ・平田校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

## ◎ 英語について質疑・応答・意見交流

### ・須藤校長

観点4の説明で、東書は「学習到達目標」を3段階で示すとあるが、その具体を教えてほしい。また、その段階的に示すよさを教えてほしい。

### ・平田校長

東書の第1学年の後ろの見開きを開いてほしい。これが学習の振り返りの「学習到達目標」がすべてまとめられたものである。1年生なので小学校の学習の到達目標が載っており、ステージ1, 2, 3という3段階で分けられ、その下に学年末の目標がある。さらに、その下に第2学年、第3学年と学習到達目標が設定されているという形である。例えば「聞くこと」を見てほしい。ステージ1では「好きなことや日常的にしていること」、ステージ2では「身近な人や有名人について」、ステージ3では「体験したことやその感想など」、少しずつレベルをあげていくような形で設定されている。他にも、ステージ2では「対話やスピーチなどを聞いて」、ステージ3では「クラスメートのスピーチなどを聞いて」と条件を加えていき、最終的には学年末の到達目標につながるようになっている。ステージ1, 2, 3には教科書の何ページと書いてあるので、そこまでの内容ということが分かるようになっている。このように、先を見通しながら、レベルアップをはかる。

このように段階を示してあるので、「これまで何ができたのか」「これからどこに向かうのか」と、道筋がしっかり示されている。非常にコンパクトにすべての領域についてまとめられているので、学習の方向性を示したり、確認したりすることが簡単にできると考える。

◎ 道徳の説明

- ・石原校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 道徳について質疑・応答・意見交流

- ・村井校長

観点2における「問題解決的な学習」や「体験的な学習」について、具体を挙げて説明してほしい。

- ・石原校長

東書と日文の第1学年の教科書で説明する。まず、「体験的な学習」について説明する。東京書籍の第1学年の目次を見てほしい。該当するページに「アクション」というマークを付け、役割演技などを取り入れた学習であることを示している。目次にマークがあると、どの学習が体験的な扱いであるかということが生徒にとって分かりやすく、主体的な学びを促すことにつながる。また、日文においても、目次において該当する教材に人型のマークを付け、動作や演技をとおして考えることを示している。

次の「問題解決的な学習」について、日文の第1学年目次を見てほしい。該当する教材には、電球のようなマークを付けて、問題解決に向けて考えたり話し合ったりすることを促している。また、64ページを見てほしい。教材の終わりに「学習の進め方」のページを設けている。「問題をつかもう」で、生徒に何が問題になっているのかをつかませた後、自分で考えを深め、グループで話し合うという学習展開を具体的に示している。

「学習指導要領解説」では、道徳科の授業で、「問題解決的な学習」や「体験的な学習」等を取り入れることで、指導方法の工夫を図り、生徒が問題や課題について、多面的・多角的に考察し、主体的に判断し、よりよく生きていくための資質・能力を養うことが大切であると示している。7者の発行者のうち、「問題解決的な学習」を特に指定していなかったり、「体験的な学習」を全学年で扱っていなかったりするものもあるが、説明したとおり、該当する教材や、その学習展開が生徒にも分かるように示してあることは、生徒が主体的に学習に取り組む工夫であると考えている。

◎ 全体を通して

- ・安部課長

先ほど、藤原校長から指摘があった点について、技術と家庭の観点・視点・方法を見てみると、まったく同じ観点・視点・方法で調査されている。今一度、調査・研究報告書も見直し、協議されてはどうか。

- ・細川校長

先ほど、藤原校長から指摘があった、技術・家庭（技術分野）の観点1と、技術・家庭（家庭分野）の観点1にあるDマークについて、内容や量的なことも含めて違いがあるということに関してどうか。

- ・湊校長

家庭の観点1について検討したい。調査・研究委員会から提出された調査・研究報告書に記載されている言葉で表現することとさせていただきたい。

- ・細川校長

それでよいか。

（異議なしの声あり）

- ・細川校長

他に何か意見等はないか。

- ・吉長教授

大変忙しい時に、調査・研究をしていただき御礼を申し上げる。非常に精緻で、客観性と公平性を加味された報告書であり、敬意を表したい。感想になるが、何を育成するか、資質・能力ということで3本柱があるが、これに対して、教科用図書今回の会議に参加して、非常に印象深かったのは、「何を学ぶか」ということもそうだが、「どう学ぶか」に対して、充実した選定案を出していただいているのではないかと思う。特に、どの種目についても、「思考をつなぐ」、「時間的なものをつなぐ」、「用途をつなぐ」、「ひろがる」、「デジタルコンテンツでつながる」など。また、思考一つとっても、公民では、「トゥールミン図式」のようなものが出てくる。地図では、他の地図とどう活用して関連付けていくか。理科では、「つながる科学」。「つながる」をキーワード

に科学の中で出てきた言葉をひろって見たが、ほとんどの科学にそういう考え方があるのだなと分かった。これは極めて大事だと思う。音楽でもそうである。美術にいたっては、鳥獣人物戯画において、触覚という刺激をどうしても伝えきれない、そういう意味では五感に近い感覚情報を「つなぐ」というものを、視覚中心の美術の中にも入れていただいている、そういうものを選定していただいている。ゲルニカを見ている子供も一緒に写して、その体性感覚を働かせるような内容だった。保健体育においても、自他の生活に当てはめる、これも「つながる」だと思う。技術では、技術の見方や考え方についてガイダンスという形でその効果が非常にうまく使われている。英語においては、小学校から始まっているし、高校への目標までつながっており、「時間的につながる」形のものを選んでいる。評価についても、大学でもルーブリックを使い、パフォーマンスの評価をしているのだが、これも教科書の内容に合っていると思う。道徳においては、3つの教材を一緒にして表現している。キーワードとして今回の本会議で、「つながる教科用図書」ということで、教科書の進化論みたいなところをすごく感じた。このようなコロナ禍の状況で現場は本当に大変だと思うが、膨大な資料を精緻に、公平性を持って評価し、報告案を作っていたことに御礼を申し上げる。

◎ 総合所見の案を基に、教育長に報告することについて確認

・細川校長

それでは、中学校教科用図書の総合所見について、次の2点を加筆・修正して、教育長に報告する。

美術の観点1，光村の「動画が豊富に」を「動画を豊富に」に修正する。

技術・家庭の家庭分野の観点1の表現を調査・研究報告書に合わせる。

よろしければ、拍手をお願いします。

教育長に報告することについて、承認を得る。

◎ 閉会

藤井主任指導主事が会を終了した。